

登山月報

JMSCA

登山月報 第680号 令和7年11月15日発行



青野山 — 津和野を見守る「妹山」

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.680

第79回 わた SHIGA 輝く国スポ スポーツクライミング競技報告	2
安全登山指導者研修会「東部地区」	4
SKIMO 湯の丸 合宿報告	5
福井県開催 令和7年度 登山部 指導委員会	6
登攀技術研修会、A級主任検定員養成講習会、B級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会報告	
Jr. クライミング体験会 in ロクボク 開催報告	7
第17回 WCM ウィンタークライマーズ ミーティング報告	8
「近自然工法による登山道補修」および「自然保護新規・更新登録者向け講習会」参加報告	9
Enjoy Climbing	11
秋田県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGSな活動	12
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	12

1. 大会概要

第79回わたSHIGA輝く国民スポーツ大会スポーツクライミング競技は、2025年10月3日から5日にかけて、滋賀県竜王町の全天候型施設「ドラゴンハット」で開催されました。本大会は、前回佐賀大会に引き続きジェンダー平等の理念を重視し、成年男子・成年女子・少年男子・少年女子の4種別、計103チームによって競技が行われ、リード競技予選は国際連盟(IFSC)のルールに準じ、フラッシング方式で2ルートを登る形式で実施されました。

今回の出場選手には、9月韓国のソウルで開催された「クライミング世界選手権大会2025」リード競技で準優勝した奈良県の成年男子 吉田 智音(よしだ さとね)選手をはじめ、ボルダー競技などでも活躍した選手、またワールドカップ等で表彰台に上がった選手、アジアユース選手権の日本代表として優勝した選手など数多くの日本代表選手が出場し、日本最高峰のレベルの高い大会となりました。

2. 競技施設と運営体制

競技会場の「ドラゴンハット」は、全天候型ドームとして天候に左右されず競技や運営に集中できる理想的な環境でした。また、リード・ボルダー両競技の壁は国際基準に合わせて設定され、選手・観客ともに高い満足度を得る結果となりました。

運営体制は滋賀県山岳連盟を中心に構築され、近畿および東海ブロックから経験豊富な役員も多数参加し、総勢206名のスタッフにより、スムーズな大会運営が実現できました。

3. 競技結果

成年男子ボルダー競技決勝で、佐賀県の通谷律選手が4課題を1発で完登する見事なパフォーマンスを披露しました。

成年女子リード競技決勝で、愛媛県の谷井菜月選手がBルートで唯一完登する見事なパフォーマンスを



披露しました。ふるさと選手として、成年男子で18名(34.6%)、成年女子で9名(17.3%)が、郷土を代表して参加してくれました。

少年男子リード競技決勝で、神奈川県の中田和樹選手がAルートで唯一完登、同じくBルートで濱田琉誠選手が完登こそ逃したものの見事なパフォーマンスを披露しました。少年男子ボルダー競技決勝で、東京都の笹原蓉翠選手が4課題を1発で完登する見事なパフォーマンスを披露しました。

少年少女リード競技決勝で、大阪府の小田菜摘選手と三重県の山真奈実選手がBルートで完登する見事なパフォーマンスを披露しました。今年も中学3年生が少年男子12名(23%)、少年女子18名(36%)出場し、その実力の高さを示してくれました。

【参考グレード】

■リード競技

		成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
SAGA	予選	13c/d	13 b	13d/14a	13a/b
国スポ	決勝	14a	13 b	13d	13b
滋賀	予選	14a	13b/c	13c/d	13b
国スポ	決勝	14a	13b/c	13c/d	13b

■ボルダー競技

		成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
SAGA	予選	1級~初段	4級~1級	1級~2級	4級~2級
国スポ	決勝	初段~2級	2級~1級	1級~2級	2級~1級
滋賀	予選	1級~2級	3級~1級	2級~初段	3級~1級
国スポ	決勝	初段~2級	2級~初段	1級~2級	2級~初段

【天皇杯・皇后杯】

天皇杯順位

順位	都道府県	得点
1	東京都	115
2	三重県	82
2	奈良県	82
4	大阪府	67
5	静岡県	64
6	千葉県	58
6	神奈川県	58
6	滋賀県	58
6	佐賀県	58

皇后杯順位

順位	都道府県	得点
1	東京都	73
2	大阪府	61
3	滋賀県	58
4	千葉県	55
5	長野県	52
6	静岡県	46
7	三重県	40
8	奈良県	37

天皇杯／皇后杯は、昨年の佐賀大会に続き、東京都が二連覇を果たしました。関係者の皆さまに、心からお祝い申し上げます。

観客の来場者数は3日間でおおよそ1万人に迫る勢いで、競技の注目度の高さを示す結果となりました。

各種別の競技成績は、以下のとおりです。



全成績については、JMSCA公式掲示板↓をご覧ください！
<https://jmanew.sakura.ne.jp/climbing/temp/results/kokutai/pub/shiga/>



4. 課題と改善点

大会が盛り上がった一方で、運営面ではいくつかの課題も明らかとなりました。成年女子では2チームが棄権届を提出し、DNS（不出場）となりました。今後は、補欠選手の育成など、各地域での組織的な選手育成の体制整備が求められる結果となりました。また、選手登録においては、登録料未納による登録保留者が数名確認されました。監督資格においても、更新期限直前まで更新手続きが行われていない事例もありました。今後は、都道府県連盟（協会）に対して、予選会時点での選手登録証提出の徹底を呼びかける必要があると感じました。その他、宿舎から会場への輸送計画についても、移動距離の長さから柔軟な調整が難しく、バス発車時刻と受付開始時間の調整など改善の余地が残された大会でした。

5. 成果と今後の展望

本大会では、競技運営の円滑化、選手の高い技術レベル、観客動員数の増加など多くの成果が見られました。

特に、地元滋賀県の選手たちが見せた躍動は、長年の育成・強化の成果を象徴するものでした。各部門の協力体制も良好であり、他地域の大会運営者からも高い評価を得ました。今後は、大会運営マニュアルの標準化と若年層の指導者育成の強化を継続し、地域に根ざした競技振興が図られていくことが期待されます。

6. 最後に

最終日の成年女子決勝、敬宮愛子内親王殿下にご来場いただき、ご観覧いただく予定でしたが、直前の体調不良によりご観覧が実現できなかったことが非常に残念でした。

この大会のために約5年前から準備にあたっていただいたの主管の滋賀県山岳連盟さま、地元竜王町実行委員会さま、そして、スタッフと協力いただいた滋賀県内のクライミング関係の皆さん、近畿ブロック、東海ブロックの関係者の皆さんに心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。ありがとうございました。

成績

■成年男子リード競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チームポイント
1	佐賀県	A 1	樋口 純裕	2.00	2.45
		B 3	通谷 律	3.00	
2	奈良県	A 6	坂井 亮瑛	6.50	2.55
		B 1	吉田 智音	1.00	
3	埼玉県	A 4	猪鼻 碧人	4.00	2.83
		B 2	百合草碧皇	2.00	
4	静岡県	A 1	鈴木 音生	2.00	3.61
		B 6	藤井 快	6.50	
5	新潟県	A 1	田中 修太	2.00	4.00
		B 8	渡辺 颯海	8.00	
6	栃木県	A 6	関口 準太	6.50	5.10
		B 4	川又 瑠瑛	4.00	
7	大阪府	A 5	藤藤 祐二	5.00	5.70
		B 6	辻本 匠	6.50	
8	千葉県	A 8	石見 友一	8.00	6.32
		B 5	村下 善乙	5.00	

■成年男子ボルダール競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チーム成績
1	福井県	6	橋嶋 明智	84.9pt	169.9pt
		5	天笠 颯太	85pt	
2	三重県	11	渡部 桂太	69.8pt	169.7pt
		2	杉本 侑翼	99.9pt	
3	栃木県	4	関口 瑠瑛	85pt	169.4pt
		8	関口 準太	84.4pt	
4	佐賀県	15	樋口 純裕	59.5pt	159.5pt
		1	通谷 律	100pt	
5	福岡県	3	緒方 良行	85pt	154.2pt
		14	緒方万佐也	69.2pt	
6	鹿児島県	7	土肥 圭太	84.7pt	154.2pt
		13	川畑イサム	69.5pt	
7	奈良県	10	吉田 智音	69.8pt	139.8pt
		9	坂井 亮瑛	70pt	
8	静岡県	12	藤井 快	69.7pt	129.1pt
		16	鈴木 音生	59.4pt	

■成年女子リード競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チームポイント
1	東京都	A 1	平野 夏海	1.00	2.45
		B 6	青柳 未愛	6.00	
2	愛媛県	A 8	相原麻菜美	8.00	2.83
		B 1	谷井 菜月	1.00	
3	滋賀県	A 2	張替 夢乃	2.50	3.16
		B 4	石井 未来	4.00	
4	愛知県	A 4	倉 菜々子	4.50	3.67
		B 3	高尾 知那	3.00	
5	大阪府	A 7	小山 芹葉	7.00	3.74
		B 2	中川 瑠	2.00	
6	山口県	A 2	大田 理装	2.50	4.47
		B 8	吉田 清華	8.00	
7	千葉県	A 4	竹内 亜衣	4.50	4.74
		B 5	久米乃ノ華	5.00	
8	奈良県	A 6	小倉 紗奈	6.00	6.48
		B 7	坂井 美緒	7.00	

■成年女子ボルダール競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チーム成績
1	奈良県	3	小倉 紗奈	75pt	174.8pt
		1	坂井 美緒	99.8pt	
2	東京都	4	平野 夏海	75pt	149.7pt
		7	青柳 未愛	74.7pt	
3	滋賀県	10	石井 未来	60pt	134.9pt
		5	張替 夢乃	74.9pt	
4	千葉県	8	久米乃ノ華	60pt	120pt
		8	竹内 亜衣	60pt	
5	長野県	15	三森 里子	34.9pt	119.5pt
		2	中嶋 諒	84.6pt	
6	愛知県	13	倉 菜々子	49.8pt	99.8pt
		12	高尾 知那	50pt	
7	佐賀県	6	大河内芹香	74.9pt	94.7pt
		16	樋口 結花	19.8pt	
8	大阪府	11	中川 瑠	50pt	85pt
		14	小山 芹葉	35pt	

■少年男子リード競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チームポイント
1	神奈川県	A 1	仲田 和樹	1.00	1.00
		B 1	濱田 琉誠	1.00	
2	東京都	A 2	笹原 碧翠	2.00	3.32
		B 5	神原 藍琉	5.50	
3	福井県	A 8	八田 泰成	8.00	4.00
		B 2	古川 大智	2.00	
4	山口県	A 7	上田 悠太	7.00	4.58
		B 3	長尾 一樹	3.00	
5	徳島県	A 3	増田 凛世	3.00	4.58
		B 7	中山 勇希	7.00	
6	北海道	A 6	下山 士和	6.00	4.90
		B 4	荒川 翔哉	4.00	
7	奈良県	A 5	奥畑 成	5.00	5.24
		B 5	田淵 幹規	5.50	
8	三重県	A 4	齋木 猛斗	4.00	5.66
		B 8	小山 楚嵐	8.00	

■少年男子ボルダール競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チーム成績
1	神奈川県	2	濱田 琉誠	99.7pt	199.4pt
		3	仲田 和樹	99.7pt	
2	東京都	1	笹原 碧翠	100pt	174.3pt
		7	神原 藍琉	74.3pt	
3	三重県	9	小山 楚嵐	69.3pt	154.1pt
		5	齋木 猛斗	84.8pt	
4	山口県	13	上田 悠太	49.6pt	149pt
		4	長尾 一樹	99.4pt	
5	奈良県	12	田淵 幹規	59.6pt	119.3pt
		10	奥畑 成	59.7pt	
6	北海道	11	荒川 翔哉	59.7pt	104.4pt
		14	下山 士和	44.7pt	
7	福島県	8	佐々木玲偉	69.9pt	103.9pt
		15	佐々木泰地	34pt	
8	佐賀県	6	通谷 結太	84.4pt	103.8pt
		16	河端 航大	19.4pt	

■少年女子リード競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チームポイント
1	千葉県	A 1	村杉 汐里	1.00	2.12
		B 4	的場 朱杜	4.50	
2	大阪府	A 5	金木 そら	5.00	2.74
		B 1	小田 菜摘	1.50	
3	三重県	A 8	西井 七海	8.00	3.46
		B 1	山 真奈実	1.50	
4	静岡県	A 3	堀内 優里	3.50	3.97
		B 4	狩野 風	4.50	
5	滋賀県	A 2	福田 和華	2.00	4.00
		B 8	村田 柚	8.00	
6	東京都	A 6	山崎 彩葉	6.00	4.24
		B 3	柿崎 咲羽	3.00	
7	長野県	A 3	徳嵩 悠乃	3.50	4.58
		B 6	山田 泉都	6.00	
8	兵庫県	A 7	為則 星凜	7.00	7.00
		B 7	玉水 希	7.00	

■少年女子ボルダール競技決勝

順位	チーム	個人順位	名前	個人成績	チーム成績
1	長野県	4	徳嵩 悠乃	74.8pt	119.5pt
		8	山田 泉都	44.7pt	
2	静岡県	1	狩野 風	84.7pt	119.4pt
		9	堀内 優里	34.7pt	
3	兵庫県	7	玉水 希	44.8pt	104.3pt
		5	為則 星凜	59.5pt	
4	大阪府	3	小田 菜摘	84.6pt	94.5pt
		13	金木 そら	9.9pt	
5	三重県	2	山 真奈実	84.6pt	84.6pt
		15	西井 七海	0pt	
6	東京都	6	山崎 彩葉	44.8pt	54.6pt
		14	柿崎 咲羽	9.8pt	
7	山口県	12	浜崎 恋羽	19.9pt	44.7pt
		11	橋尾 芽依	24.8pt	
8	京都府	16	西田 和桜	0pt	25pt
		10	村上 和香	50pt	

安全登山指導者研修会「東部地区」

主管：岐阜県山岳連盟

日時：2025年10月11日（土）午後～13日（月）午前

場所：長良川スポーツプラザ大会議室、金華山

令和7年度の安全登山指導者研修会「東部地区」を岐阜岳連が主管することについて現実感を持って認識したのは、6年度の東部地区研修会の申し込みが始まってからでした。それまではJMSCA関係者との会話の中で「岐阜県での開催」に触れられた記憶はありましたが、「正式な打診がどこかであるだろう」と高をくくっていたのです。令和6年の初夏から秋にかけては、北アで2月から行方不明となっている岳連加盟山岳会の会員2名の手掛かりを求めて捜索に注力している時期でした。翌7年3月には安全対策の不徹底から怪我人を出す事故を体育館で起こしていました。足元での事故・遭難防止に漏れがある中で、国登研・JMSCA主催の行事を主管する資格があるのかという声があったのかもしれませんが、実施するという選択しかなかったことは幸いだったように思います。

室内研修・実技研修と宿泊の三拍子が揃う会場は限られ、社会人の多くの参加を期待するなら実施日も絞られます。前年の富山での下見を参考にして、2月には場所と日程を固めることができましたが、有名な山での開催がよかったのか、アクセスと準備の便利な近場がよかったのかという判断は、募集が始まってからも気になり続けた点でした。

「研修会場が観光地」であることが幸いしたのか、東海地方を中心に募集人数を越える27名の参加となりましたが、それ以上に、次代を担う学校関係の若い指導者の方に参加いただけたことは、主管団体としては何よりでした。

会場の金華山はロープウェイでも登れる観光地です。県内役員にとってはなじみの山ですが、「国立」



と称される機関に関わる研修を担うとなれば初めに帰っての対応が求められます。猛暑が続く中、あえて雨模様の日に下見を行うなど現地については万全を期しました。なじみの顔ばかりの研修に慣れ、アルパインという言葉に引っ張られ、新しい技術や装備の紹介に目が向きがちな県内講師にとっては、多くの登山者に求められる読図やプランニングといった遭難防止に直結する技術を伝える、研修生が主体的に考えて行動できるよう導く、教えることは学ぶことの意味を噛みしめながらの研修ではなかったかと思います。私が所属する日本山岳会岐阜支部からは研修生と講師の双方に関わりましたが、研修生が講師を務める読図山行が早速計画され、研修生の「はまりそう」の声が早々に具現化する気配です。

研修初日の夕刻になって会場準備の不手際が露呈し、皆さんにご迷惑をおかけしましたが、講師の方の臨機な対応に救われました。

研修生、講師の先生、国立登山研修所やJMSCAの皆さま、スタッフとして対応していただいた岐阜県山岳連盟の皆さんにこの場をお借りして感謝を申し上げますとともに、今回の学びを明日からの実践に繋げ、この研修に関わった方がどこかの山で再会することを祈念するばかりです。

（岐阜県山岳連盟 理事長 水谷嘉宏）



報告者：JMSCA SKIMO コーチ 松澤 幸靖

日 程：2025年10月10日(木)～13日(日)

場 所：長野県 湯の丸アスリートビレッジ

参加者：ジュニア世代5名(小学生含む)/シニア世代6名

目 的：今年4回目となる陸上合宿として、専用施設を使用しながらより実戦に近いトレーニングを行うことを目的とした。また、ヘッドコーチPepが今季2度目の来日を果たし、技術面・戦術面の両側から指導を行った。

トレーニング内容

■10月10日(木) 天候：晴れ

PM：ストックランニング

1. スムースラン(上下動を抑え、SKIMOの動きを意識)
2. バウンディング(弾むような動き)
3. ジグザグステップ
4. スtockワーク(シングル～ダブル)
5. 10秒×5本ダッシュ
6. 15mダッシュ→5秒ストップ→10mダッシュ
7. サイドステップトレーニング
8. クールダウン

■10月11日(金) 天候：雨

AM：スプリント+技術練習

- ・ゴムバンドを使用したウォームアップ(ジム)
- ・ウッドチップコースでスプリント模擬大会(標高差40～60m、予選～決勝形式、全力×4～5本)

PM：SKIMO用具トランジット練習

- ・シール着脱、スキー着脱、背負い・収納の動作確認とタイム計測

■10月12日(土) 天候：晴れ

AM：スピード耐性+持久系トレーニング

- ・シニア：ロードバイク 約55km(2時間半、強度レベル3)
- ・ジュニア：烏帽子岳トレッキング(約2時間半)

PM：補強・ローラースキートレーニング

- ・シニア：ローラースキー登り 約700m(強度レベル3)
- ・ジュニア：ベーシクトレーニング～登り坂15分(強度レベル3)。または、ウェイトトレーニング(スクワット、デッドリフト等)、体幹・モビリティ強化

■10月13日(日) 天候：晴れ

AM：トラックにて短距離走の測定 5秒・10秒でどれだけ進めたかを測定。各自の課題確認と個別調整、合宿の総括ミーティングを実施。

【総括】

本合宿は2025年度夏季陸上合宿の第4回目にあたり、7月の白馬(標高約750m)での2回の合宿、8月の志賀高原合宿(標高約1750m)に続き、今回も高地環境(湯の丸高原：標高1750m)でのトレーニングを実施した。

10月末からヨーロッパ遠征を控えるシニア選手にとっては高地順応の一環であり、またジュニア選手にとっても標高環境下での実戦的なトレーニング機会となった。湯の丸高原は昨年に続き利用したが、施設内トラック・ジム設備、ウッドチップコース、周辺の湯の丸山・烏帽子岳トレイル、さらに群馬県嬬恋村方面へのロードバイクコースなど、充実したトレーニング環境のもとで計画通りのメニューを実施できた。

今回の合宿では、ロードバイクを除きシニア・ジュニアが同一メニューを共に行う時間を多く設けた。これにより、ジュニアはシニアの動きを直接学び、シニアはジュニアの成長を感じつつ、自らの意識向上につなげることができた。結果として、チーム全体の一体感と競技意識の高まりが顕著に見られた。特に、ストックランニングやローラースキーでは、ジュニア選手の動きがより効率的になり、フォームの安定が確認された。

シニア選手も瞬発系の力発揮が向上し、個人トレーニングと合宿成果の相乗効果が見られた。

また、今回の印象的な出来事として、ジュニア選手からシニア選手・コーチへ「お守り」が贈られた。これは、これまでの合宿を通じた世代間のつながりと信頼関係の象徴であり、チーム文化として大きな意味を持つ出来事であった。

Pepコーチからは、選手指導に加えて、チーム運営・今後の方向性についての助言があり、合宿中のミーティングでは、今後の課題や強化方針を共有することができた。2026年2月のミラノ＝コルチナオリンピックに向けた日本チームの出場は現状では厳しい状況である。しかし、目標は2026年だけに留まらず、2028年のユースオリンピック、そして2030年のフランス・冬季オリンピックを視野に、選手の安全とモチベーションを両立しながら、着実に前進していく方針である。



**福井県開催 令和7年度 登山部 指導委員会
登攀技術研修会、A級主任検定員養成講習会、
B級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会報告**

令和7年10月18日(土)～19日(日)



福井県において登攀技術研修会およびA級主任検定員養成講習会、B級主任検定員養成講習会コーチ2養成講習会が福井県立クライミングセンター、にて開催された。福井駅は新幹線が開通し首都圏からのアプローチも良くなり、駅前の恐竜のモニュメントが目立っていました。

今回は研修3名、A級主任検定2名、B級主任検定9名コーチ2養成講習会9名講師4名、福井県スタッフ5名の 計32名での開催となった。

今回は、福井県山岳連盟の皆様には、大変お世話になりました。コーチ資格の全国での養成講習会の開催を期待し、また、登攀技術の向上も図りたいと思います。以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。(記：指導委員会 野村)

受講生感想

大阪府山岳連盟 佐伯 先史

「主任検定員養成講習会 (B級) に参加して」

10/8～19の二日間、福井にて開催された「主任検定員養成講習会 (B級)」に参加しました。検定員養成の講習会には初めての参加でした。事前に資料等は頂いておりましたが、座学や実技の詳細は分からないままでの参加となり、不安がありました。しかしながら、講習生はほぼ初対面の方々ではあったものの、そこは指導員としての志を同じくする者の集まりであり、わずか二日間の限られた時間ではありましたが、どなたとも気さくに話すことができ、改めて『山仲間』のすばらしさを実感した次第です。

さらに座学や実技においても、時間の都合や天候等の制約がある中で、講師・スタッフのその場での適宜適切な判断で、円滑に実技や検定を進めていただき、感謝いたします。ありがとうございました。



個人的にはまだまだ勉強不足、技量不足を実感させられた場面も多々ありましたが、今回、幸いにもこのような講習会に参加できたことを前向きにとらえ、今後も自己研鑽に励み、「相手が理解できないのは、自分に原因があるから」という心構えを忘れずに、多くの方と知識を共有すべく、学んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

【追伸】

・開催地の福井のスタッフの方々にも、大変お世話になりました。ありがとうございました。特に夕食においては、手作りの「ポトフ」や 鶏肉の燻製など、大変美味しかったです。重ねて御礼申し上げます。

北海道 札幌山岳会 遠藤 真

「コーチ2養成講習会に参加して」

JMSCAとして実施される研修等にこれまで参加したことがなく、はじめてコーチ2養成講習会/検定で参加させていただきました。

尾根歩きや山スキー滑走などから登攀中心へとシフトして数年。技術を受け継ぐ側から伝える側へと徐々に立場が変わっていくのかな。という気持ちから、山岳コーチ2の取得を考えたところ、2025年は登攀技術に関する指導者育成研修会が福井県開催とのこと。行ったことのない地域。受講動機も曖昧なうえに、ちょっとした旅行みたいな安易な気持ちで自分自身の誕生日に開催される講習会に申し込みました。

講習会では、マルチピッチにおけるリードクライマー墜落時の制動確保、仮固定、荷重移し替え、自己脱出の一連の流れと、隔時登攀から支点構築、懸垂下降が主なメニュー。

制動確保から自己脱出までの手順は普段の練習不足が明らかになってしまったし、隔時登攀から懸垂下降もいたずらに焦っていろいろな手順が抜け落ちてしまっている、いちばんダメな受講者だったと思います。

こんな私でも、福井県連の皆さまをはじめ、他の受講生の方々には前日から温かく迎えてくれましたし、講師の方々にも、間違えているところをさりげなく優しく根気強く教えていただけていることをとても強く感じました。

北海道の岳連系山岳会はご多分に漏れず高齢化少数化が顕著です。そのようななかで、今回参加させていただいて、内地（北海道では本州を指してこう呼ぶことがあります）では県を越えた結びつきがあることがみて取れました。

北海道は北の島国のなかで完結してしまい、技術も身内で伝えられたことを維持しているだけのように思いま

すので、こうした機会に参加することで、常に最新の知識技術にアップデートしていく重要性を強く実感しています。

次は氷雪の受講となりますが、やはり旅行気分の安易さは拭いきれないもののしっかりと指導方法を身につけて、責任感のある指導員となれるように努めていきたいと思います。

Jr.クライミング体験会 in ロクボク 開催報告

共 催：甲府東ロータリークラブ／日本山岳スポーツクライミング協会 (JMSCA)

主 管：山梨県山岳連盟

開催日：2025年10月11日(土)／会場：クライミングジム LOCK BOKU (ロクボク) (山梨県北杜市)

◆実施の目的

昨年に引き続き、2回目の開催となった山梨県でのジュニアクライミング体験会。2020年東京オリンピック、2024年パリオリンピックでの日本選手の活躍により、全国的に注目が高まっているスポーツクライミング。一方で山梨県内では競技人口の伸びが緩やかであり、2032年の第2巡目国民スポーツ大会(山梨県開催)に向け、ジュニア世代への普及が重要な課題となっています。今回、山梨県では2回目となる体験会では、会場を北杜市「ロクボク」に変更し、ボルダリング・リード(ロープ)2種目の体験を実施。より幅広い層への普及を目指しました。

◆開催概要

- ・対象者：小学校3～6年生(クライミング経験不問)
- ・参加者数：約50名(保護者含む)
- ・特別講師：中村真緒選手(日本代表・日新火災)

◆当日の様子

- ・写真①：中村選手の話真剣に聞く参加者たち
⇒中村選手から、クライミングを始めたきっかけや練習のことなどを教えてもらいました。
- ・写真②：ボルダリングに挑戦する子どもたち
⇒中村選手のアドバイスを受けながら、一手一手伸

ばしていきます。

・写真③：ロープクライミング体験コーナー

⇒インストラクターのサポートのもと、ロープを使った高さへの挑戦。安全第一でしっかり体験できました。

・写真④：中村真緒選手と記念撮影

⇒「また登りたい!」という声がたくさん聞かれ、スポーツクライミングの魅力を実感する一日となりました。

◆成果と今後の展望

今回会場となった山梨県北杜市にある「クライミングジム LOCK BOKU (ロクボク)」は、旧小学校だった建物を再利用したとても独創的な施設です。施設オーナーの伊藤剛史氏は、JMSCAのA級公認セッターであり、また「BOTANIX」というクライミングウォールの設計を手がける会社代表でもあり、今回、山梨岳連との連携でスポーツクライミングの普及活動である「体験会」に協力していただきました。

山々に囲まれ、岩場も近い、という環境に恵まれているせいか、山梨県の選手層はまだまだ薄いのですが、ここロクボクは、オーナーのもつクライミングへの想いを受け、自然とジムをつなぐ場所になりつつあります。

このような環境の中で、クライミングを始めた子どもたちが、今回、日本代表として世界で戦う中村選手から刺激を受け、クライミングって楽しい! 続けたい! と思ってくれたら幸いです。

私たちJMSCAは、今後も全国の岳連さまと連携しながら、子どもたちがスポーツクライミングを通じて成長できる環境づくりを進めていきたいと考えています。



写真①



写真②



写真③



写真④

第17回 WCMウィンタークライマーズ ミーティング報告

2025年2月23～24日
北海道・十勝連峰・上ホロカメットク山



1. 日程／宿泊地

期 間 2025年2月23日(日) ～ 24日(月)

宿泊地 十勝岳温泉 凌雲閣別館 上富山荘

2月22日 前泊の受付／食事提供

2月23日 6:00 十勝岳温泉駐車場集合／開会式

7:00 アプローチ開始

各自登攀／要所で無線連絡

16:00 下山

適宜食事準備

18:00 夕食

19:00 スライドショー

(馬目氏、成田氏、中川氏)

2月24日 希望者は各自クライミング

15:00 チェックアウト

本来はお昼までにチェックアウトすべきであったところを特別延長

2. クライミング対象地

十勝連峰 上ホロカメットク山周辺

(正面壁、八手岩、化物岩)

宿泊ベース：十勝岳温泉 凌雲閣 上富山荘

概念図(赤丸で囲ったのが今回クライミング対象となった上ホロ正面壁、八手岩、化物岩)



3. 登攀の様子

2/23 十勝岳温泉でマイナス15℃と良い感じに冷え込んだ日に、21人のクライマーが全国から集まった。定時連絡などの注意事項を確認し、Partyごとで出発する。朝方は晴れて、正面壁も見え隠れしながらの天気の中、大所帯で安政火口へ向かう。夏道がヌッカクシ富良野川を渡るところ(通称旧Dポイント)で化物岩Partyと別れ、残りのメンバーは安政火口付近まで歩を進める。ここで、スキー、スノーシューをデポし、アイゼンを装着、ピッケルを手に各登攀対象へ向かった。この正面壁に16名もの大所帯が取り付いているということは過去に見たことがなく、感慨深い。三段リッジPartyは北西稜から取り付いた。そのほかのPartyはアプローチ尾根を正面壁の基部まで登り、そこで身支度をして各ルートへ取り付いた。

4. スライドショーの様子

23日の夜に3件のスライドショーを実施した。

馬目氏 ネパール チョッパ・バマレ峰

成田氏 パキスタン ヒンドウラジ ツイII峰、日高山脈
厳冬期直登沢

中川氏 北海道の冬季登攀

ネパールやパキスタンでの海外高所登山の話から、身近な北海道：日高を舞台とした新しいスタイルでの冬季クライミング、そして今回の舞台のカミホロでの登攀を含む北海道で実践されてきたウィンタークライミングなど、3人の演者からヴァリエーションに富んだクライミングの報告を聞くことができた。通常の報告会とは異なり、夜遅くまで酒を飲み交わしながらマニアックな話題を深掘りできる時間、そしてスライドショーでモチベーションが上がったところで次の日のクライミングについても話し合う雰囲気へ相乗効果もあり、最高だった。

スライドショーの最後にはじゃんけん大会を行い、勝者は協賛企業である秀岳荘様より提供いただいた豪華協賛品を獲得するなど盛り上がった。

5. 感想(抜粋)

馬目 ずっと前から登ってみたいと思っていた「上ホロ」に来る機会を得られたことがとても嬉しいです。実体験として、この山と壁の厳しさと難しさを知れました。(アプローチの雪崩の危険、この壁独特の難しさ、下降路の選択など)各パーティーに地元・北海道のメンバーを加える配慮をしていただいたこと(杉嶋さん、ありがとうございました!)に感謝です。WCMの運営に関しては満点だと思います。お宿で居心地よく快適な生活ができて良かったです。皆との雑談も楽しめて、総人数もちょうど良かったのではないのでしょうか。クライミング帰着後のゆとりもあって良かったです。と、とにかく良かった尽くしです。世話役をはじめ、スタッフの方々に感謝申し上げます。

す。最高でした！

和田 まず、17回目のWCMに携わってくださった皆様並びに協賛団体に御礼申し上げます。素晴らしい運営の御蔭でクライミングと温泉を存分に楽しむことができました。初めての北海道でしたが、厳冬北アルプス稜線のような環境でのクライミングがアプローチ2時間でできることに驚嘆しました。クライミングの内容も本州には滅多にないエビの尻尾+除雪クライミングでプロテクションワークも難しい。骨太クライマーを育てる環境が整っているなあと感じることができました。WCMというきっかけで各地のクライミングや自然を知るよい契機となることと思います。これからも全国各地の岩場でWCMが開催できるよう、冬壁愛好家同士の緩やかな繋がりが続くことを願ってます。

王鞍 本州から飛行機に乗り、はじめて北海道の冬壁に登る身として、必要なギアの情報共有や装備の貸出、そして送迎までアレンジしていただける体制が大変心強く、当日もクライミングに集中することができました。上ホロという場所は、いままで本州では経験のなかったエビのしっぽの永遠に終わらない除雪、急激に吹き荒れる天候、

短いピッチにもかかわらず中身のぎっしり詰まったルートの数々を存分に味わうことができ、なおかつクライミング後の交流の時間もたっぷりあるという稀有な存在だと感じました。宴会では溜まった疲れでほとんど意識朦朧としてしまいましたが...また北海道でWCMが開催される際には、是非とも参加したいと思います。本当にありがとうございました。

6. 謝辞

WCMの実施にあたり、以下の団体のサポートをいただきました。謹んでお礼申し上げます。

協賛 (公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、(株)ゴールドウィン、北海道の山の店 秀岳荘、北海道山岳・スポーツクライミング連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟、旭川山岳会、札幌山岳連盟

※オリジナル報告書はJMSCA HP 下記からご覧になれます。



<https://www.jma-sangaku.or.jp/sangaku/%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8/%E7%AC%AC17%E5%9B%9E%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8/>

「近自然工法による登山道補修」および「自然保護新規・更新登録者向け講習会」参加報告

2025年9月・10月に山形県および新潟県にて開催された「近自然工法による登山道補修」の現地講習と「自然保護指導員新規・更新登録者向け机上講習会」を組み合わせた企画に参加した。以下に、両県での実施概要、特に現地での登山道補修について報告する。

【山形県での実施概要】

■近自然工法および自然保護指導員講習会

①机上講習会 [2025年9月13日(土)]

会 場：天狗平ロッジ

参加者：山形県山岳連盟小国山岳会、NPO法人飯豊朝日を愛する会(以下「飯豊朝日を愛する会」)、JMSCA自然保護委員会関係者ほか

テーマ

・「登山道保全の歩みと技法(近自然工法)」

講師 井上邦彦氏

(山形県山岳連盟理事長、飯豊朝日を愛する会副理事長)

・「自然保護指導員新規・更新登録者向け講習会」

講師 JMSCA自然保護委員

②現地講習会 [2025年9月14日(日)]

場 所：飯豊山 梶川尾根

講 師：草刈広一氏

(飯豊朝日を愛する会理事長、山形県山岳連盟自然保護委員長)

事前に補修箇所の状況につきレクチャーを受けた後、雨天の中、20名以上の参加者が椰子繊維の土嚢袋、チェーンソー、木槌、カスガイ等の装備を分担して出発。標高1,030m付近の洗堀箇所、講師陣の指導のもと、現地調達した丸太を運搬、洗堀箇所を計測して丸太を設置、カスガイで固定後更に周囲から刈込み集めたシバ(小雑木)の束や登山道脇の土、風倒木の木くずや落ち葉などを詰め込んだ土嚢袋を埋込むなど、一連の修復作業を体験した。

③交流会

講習会後の両日、天狗平ロッジにて飯豊朝日を愛する会の皆様の温かいおもてなしのもと、自然環境に関する様々な意見交換を行った。

【新潟県での実施概要】

■近自然工法および自然保護指導員講習会

①机上講習会 [2025年10月11日(土)]

会 場：民宿 小西屋

参加者：新潟県山岳協会、飯豊朝日を愛する会、JMSCA自然保護委員会関係者ほか

テーマ

・「飯豊を愛し、飯豊で生きる」

講師：草刈広一氏(前述)

・「自然保護指導員新規・更新登録者向け講習会」



補修前



洗堀の計測



丸太を流木の仕組みで配置



補修後の登山道

講師：JMSCA自然保護委員

②実地講習会 [2025年10月12日(日)]

場 所：守門岳 大岳尾根キビタキ小屋上部

講 師：飯豊朝日を愛する会、新潟県山岳協会登山道補修経験者

懸念された雨も止み、30名以上で保久礼(ホッキョウレ)登山口駐車場から装備を分担して出発。途中、登山道を塞いでいた風倒木をチェーンソーで処理したり、更に丸太を即席加工して「掛矢」を調達しながら、標高約1,100m地点の洗堀箇所に進む。2班に分かれ、山形県での実習と同様の作業を実施した。

今回は、講師の指導の元にチェーンソーを初めて操作するなど、参加者の積極的な姿勢が目立った。補修地周辺は粘土質の登山道で、土嚢袋に詰める材料の確保にも苦勞し、濡れ落ち葉や柴の収集に手間を要した。

③交流会

机上講習会后、民宿での交流会・二次会では参加者の紹介なども交え、有意義な交流の場となった。

所 感

今回の登山道補修作業は、知恵と体力を総動員する、まさに現場でしか得られない濃密な体験であった。登山道の荒廃は様ではなく、土壌の性質、資材の入手状況、崩壊のメカニズムなど、地域ごとの条件に応じた対応が不可欠である。画一的な手法では太刀打ちできないこの現実こそ、「近自然工法」の真価が問われる場であり、その奥深さと可能性を肌で感じる事ができた。

両県での研修では共通の技術を用いたが、現場ごとの工夫や判断が随所に求められた。これらの経験を通じて、私たちが日頃活動するフィールドにおいても、洗堀箇所の補修に近自然工法を積極的に取り入れていきたいと思う。今後は、今回の経験や講習会で示された「登山道保全マニュアル」を技術的な引き出しとして活用し、若手への技術伝承を進めていく必要があると感じた。

「飯豊朝日を愛する会」のメンバーは、登山道補修に対する高い志を持つ精鋭集団である。若くして自然に関わる職に就く者も多く、それぞれが地元の山を守りたいと

いう強い使命感を胸に、地域との信頼関係を築きながら活動している。装備も充実しており、過去の補修箇所の経過観察を通じて、技術の改良と知見の蓄積を着実に進めている。

こうした「近自然工法」の担い手が全国に広がりつつあることは、自然保護の未来にとって心強い兆しである。私たちの活動フィールド、そして全国各地の山域には、登山者の踏圧や過去の不十分な補修によって危険な状態に陥っている登山道は数知れない。こうした荒廃箇所の再生に向けて、地元の方山岳関係者が「飯豊朝日を愛する会」などの活動から学びを得て、自然に寄り添い、自然を取り戻す持続可能な補修を共に進めていけることを、心から願っている。そのためにも、JMSCA自然保護委員会は、この貴重な知見を全国の山岳団体と共有していく活動を更に強化していこうと考えている。

最後に、昨年に続き本年も山形県・新潟県での有意義な講習会の開催にご尽力頂いた新潟県山岳協会自然保護委員長 伊藤直氏ならびに山形岳連井上・草刈両氏はじめ多くの講師陣に心より感謝申し上げます。

(JMSCA自然保護委員会 副委員長

東京都山岳連盟 自然保護委員会 委員長 小島和徳)



Enjoy Climbing!

Enjoy Alpine Climbing! 連載⑧

— アルパインクライマーとしての成長 —

鈴木 雄大

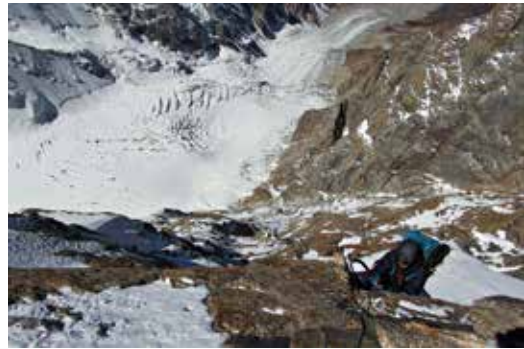
4ピッチ目も三つ星の80度程度の凹角のミックスクライミング。上手い事ラインが繋がっていたのが本当に不思議だ。5ピッチ目、ここでリードを僕に変わるが、壁の雰囲気が一転。少し遠くを見上げると凹角や弱点はなく、大きなスラブで覆われている。さてどうしようか。とりあえずスラブの基部まで登ると、一筋だけシンハンド～ピンキーフィンガーのクラックが繋がっているではないか。ここから大きくトラバースするのも一苦労が予想されたので、一か八か、クラックを直上する。太陽も当たってはいたが、流石に6400m、素手では少し冷たかったが、グローブでは無理なので素手でジャミングをしながら登る。半分程登るとフットホールドがなくなり、アイゼンを脱ぐが、もはやフリークライミングでは不可能なので、エイドに切り替える。小さなカムとトライカムを決め、所々クラックが途切れているところは数手のムーブをフリーでジワジワと登る。最終的にクラックが完全に途切れるが、1mとなりにあるフレークと、最後のアンダーに腕を一杯伸ばして、なんとかキャメロットの#0.2が決まったので、スリングをかけ、恐る恐る立ち込んだ。際どい体制でシュガースノーを除雪しつつ、脆い岩を押さえつけるようにしてマントルを返せた。この先直上出来るかどうかともだいぶ怪しかったので、一先ずテラスでピッチを切る。1時間以上は格闘しただろうか。スラブの中に差し出された一筋の小さな割れ目、繋がれたのが今でも不思議なくらいだ。[6400mにして、ルート中で最も超えられるか不安だったパート。数手のフリームーブをこなし、0.2番のカムを差し込み、そこに立ち込んで、脆い岩やシュガースノーを抑え込むようにマントルを返した。]

6ピッチ目、真上を見ると上質なフレークがある。だがその先がどうなってるかは分からない。上部が見えないという事は傾斜が寝てきて何とかなるという事だろう。と希望的観測のもと、ひとまずガバを頼りに5mほど直上すると、一面に氷の斜面が見渡せた。これで山頂まで繋がる！岩から氷に乗り移ると、すぐにここがブルーアイスの拷問パートだと分かる。

あと少しのはずだ。これまでのクライミングが想像以上にテクニカルで、この時点で夕方3時を過ぎていた。全力で硬い氷にアックスを叩き込むが、6400mを超え、スピードは出ない。それでも皆で交代しながら全力で最後の氷を登ること4ピッチ。西田が登っていると、急に反対側が切れ落ちる山頂に飛び出した。空は既に濃いオレンジ色となり、6523mの高所と強風にクタクタになりながら、



朝イチの冷え込んだ条件でギリギリ繋がっていた美しいミックスライン。@6300m 側壁にクラックもあり、成田啓が突破。写真＝鈴木雄大



6300mのドライツーリングピッチをフォローする成田啓
写真＝鈴木雄大

1時間半ほどかけて山頂ビバークの準備をする。成田と西田は整地し、僕は安定した小さなスペースをつくって水作りをした。幸い、今までで1番平らなスペースを確保できたが、激しいクライミングと高所、強風、太陽が沈む寒さで惨めなビバークとなる。体が弱っていたのもあるが、マイナス20度くらいに感じられた。

でもやり切った。同時登攀もロープスケールで数えて全部で32～34ピッチくらい登ったか。あとは明日、丸一日かけて下降するのみ。

4日目、朝起きると、対面には昨年初登したガンバルゾムVが神々しく聳える。この角度から見ると、昨年のラインが手にとるように分かり、想像以上に長いリッジを登ったんだなと感慨深い時間だった。

8時頃、相変わらず風も強く寒いので、急いで懸垂下降に取り掛かる。でもこの絶え間ない強風にも感謝だ。恐らくあのBCでの停滞中に降った大雪をこの西風が全て吹き飛ばしてくれただろう。リッジを少しクライムダウンしてリシトピーク側の斜面をオンサイトで降りるアイデアもあったが、リッジがやはり悪そうだったので、登りルートに沿って懸垂下降が安全だと判断した。氷があればなるべくVスレッドをロープ直通で行い、捨て縄を節約しておける。捨て縄も25mほどしか持参していなかった。氷のセクションを終えると、殆どピナクルを支点に降りていったが、花崗岩のためか、探せばどこかしらに使える岩があって助かった。ただ、捨て縄が少ないので、なるべく最小限に小さく、頑丈な構造の岩を探すことに気を遣った。唯一何もなかったところに短いピトン2枚打ち、それ以外は全てピナクルで懸垂下降し、山頂から23回(?)程の懸垂下降で、最初の同時登攀セクションの上部まで降りる事ができた。25m全ての捨て縄と、スリングを4本残置した。

秋田県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGSな活動

秋田県自然保護活動は、避難小屋や登山道の整備を県や自治体などが行っているものの、財政難や人手不足などによりなかなか進まない状況であります。特にここ数年は、毎年大雨災害により登山道が壊滅的な状況になっているほか、登山口に至る林道も土砂災害、崩落などが発生し、登山口に行くことができず藪化が進むなど、山の環境は年々ひどくなっていくばかりです。ただ、山の藪化は山の本来の姿であり、再生能力があるだけまだ良いという考えもあります。「登山として利用する山の環境が年々ひどくしている」という表現が適切だと思います。さらに、クマの市街地への出没が激増しているほか、近年、本県にはいなかったイノシシやニホンジカが県内にも生息域を広げており、今はまだ山での食害などはあまり見られませんが、全国的にはかなり被害がでていることから憂慮されます。また、風力発電が乱立し始めており、一定の規制が必要ではと、個人的には思っています。

前書きが長くなりましたが、全国の多くの連盟が直面している「人、物、金」の問題は本県連盟でも同様であり、会員の減少、高齢化、資金不足などにより連盟が自然保護事業として直接実施している事業は少なく、県や自治体などが行っている避難小屋や登山道の整備に所属山岳会が個別に参加しているほか、一部

の所属山岳会が独自に地元の山の保護活動、刈払い、清掃登山や普及などを実施しているのが実情です。これらについて、会員間の連絡を密にして、お互い協力し、秋田のすばらしい自然をいつまでも残すように、対処していきたいと考えております。

さらに、直接的な自然活動とは言えませんが、毎年「県体」として、高校生、一般を対象に、読図、タイム、知識など山岳技術向上を目指し、山岳競技会を実施しております。本年度は、10月に森吉山のブナ林が美しい松倉ルート会場に行き、地元山岳会に登山道の刈払いなどの整備を行っていただきました。これまでも秋田駒ヶ岳、鳥海山と併せ三山を順々に実施しており、地元山岳会には毎回登山道整備に尽力していただけてきました。また、毎年2月頃には山岳文化祭を開催し、各会の活動や山の素晴らしさを一般の方に広めていく活動を行っております。

会員の減少、高齢化、資金不足など連盟を取り巻く環境は厳しいものの、県体などの事業を継続的にを行い、育成や広報をとoshi、持続可能な自然豊かな山の維持、登山文化の推進を図ってまいります。

(秋田県山岳・スポーツライミング連盟
自然保護・普及委員長 橋本隆之)



県体の開会式



県体の登山道の様子



仮払いされた県体の登山道



老朽化と大雪等により倒壊したままの県体会場近くの東屋

JMSCA

令和7年度 第8回
ハイブリッド開催定時理事会報告

日時：令和7年10月9日(木)
13時～17時00分

場所：J S O Sビル3F会議室5
及びZoom

出席者：町田 幸男、石井 昭彦、
原 勇人、安井 博志、藤江 理枝、
廣川 健太郎、吉田 春彦、
(欠)下村 真一、小高 令子、
(欠)西原斗司男、畑中 渉、中橋 沙羅、
蛭田 伸一、栗田季慎子、望月 啓治、

星 一男、野村 善弥、中島 隆之、
赤尾 浩一、石田 英行、古賀 英年、
(欠)平田 伸也、小田部 拓、
武田 豊明、前田 善彦、奥井 健吾
監事：古屋 寿隆、佐久間 務

1. 開会

2. 会長挨拶

先日、滋賀国スポが開催された。ドラゴンハットという大きな屋内会場で約7000人の観客を集め素晴らしい大会となった。国スポ後催県の方も視察などで来場され、現状の問題点を聞くことができ、早急に対応していく必要があると認識した。

また、10月は第61回全日本登山大会が兵庫県山岳連盟の尽力で開催される運びと

なっており、参加予定の方はよろしく願います。

本日も多くの議案があり効率よく進めたいと思うので、円滑な議事進行をお願いする。

3. 会議成立状況報告

理事数 26名中23名出席

監事数 2名中2名出席

(定款第33条、定足数＝14名(過半数以上))

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議題

議案第1号 前回理事会議事録の承認について

すでに、内容の確認は完了しており以下のとおり承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第2号 組織管理運営規程の改定について

望月専務理事が、前回の理事会以降に委員会等で協議・集約されてきた事項を反映した改定案を説明した。

主な質疑事項として、

①ガバナンス委員会が総務企画部に組み込まれると独立性保持に懸念が生じるという問いに、当該委員会は案件に対し内容を整理し理事会に答申する機関であり最終決定は理事会が行うとともに、第3者機関としての裁定委員会は別に立ち上げるので独立性について問題はないとの回答

②登山普及委員会の分掌において「一般登山者」又は「全ての登山愛好者」のどちらが適当かとの議論には前者を採用などがあった。

以上、これまで出された意見を集約し、本日付けの全部改定として採決し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第3号 第3期募集基金の割り当てについて

望月専務理事が、第3期募集基金の申し込みが個人4名、2団体、計38口。総額190万円となったことを報告するとともに、申し込み全額を割り当てすることを提案し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第4号 JMSCA公認主任検定員認定規約の改正について

蛭田理事が、資料を基に変更内容を説明し、改訂日を10月9日とする改正案を提案し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第5号 滋賀国スポに関わる感謝状贈呈について

原理事が、滋賀県山岳連盟および国スポ委員会からの感謝状贈呈の上程案を説明し、望月専務理事が補足説明後、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第6号 2026年新春懇談会の開催方法について

望月専務理事が、登山部とSC部で分けている課題等を説明後、新春の催しとしてふさわしいJMSCA全体の会とするための当日のスケジュールや内容の素案を提示した。開催予定日と、SC選手派遣日が重なることが判明したので調整することとなった。実行委員会を立ち上げ、準備、運営面で事務局ばかりでなく理事、委員会にも幅広く参加してもらう。

これらの方向性について採決し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第7号 (群馬)国スポリード壁4ルート化(拒否)問題の対応について

原理事が、資料を基に経緯と回答案(案4)を説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第8号 補正予算について

望月専務理事が、資料を基に説明し、SC強化事業及びSKIMO事業に関する補助金の交付決定などを反映した補正予算案を提示した。一旦取りまとめるが、追加の補助金交付決定や協賛金の補正などの必要があるため、すぐに第2次補正作業を行うことを説明したうえで提案し、以下のように異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

議案第9号 10月末時点の収支・キャッシュフローの状況及び短期運転資金の確保について

赤尾事務局長が、予算管理表、資金状況と対策案の説明を行ない、望月専務理事が、役員などからの借入案を説明し、異議なく承認された。

棄権0名 反対0名 賛成23名

7. 報告

報告第1号 業務執行理事の業務執行報告について

各業務執行理事が、執行内容の説明をした。

報告第2号 山岳共済会主催の登山講習会の実施について

廣川副会長が配布資料を基に説明した。

報告第3号 登山部によるホームページ・SNS等での情報発信の進め方について

廣川副会長が配布資料を基に説明した。

報告第4号 後援名義承認申請への対応について

望月専務理事が、配布資料を基に、山の日協議会主催の【第7回全国「山の日」フォーラム ～山と防災～】について後援名義使用が常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第5号 SKIMO日本代表選手のワールドカップ(米国)派遣について(一部変更)

小田部常務理事が、遠藤選手が出場辞退となったことに伴い、1名(萩原選手)を追加したことについて常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第6号 UIAA総会への出席について

廣川副会長が、全日登山大会と日程とち合い、日本からの提案議事もないことから現地での総会参加は見合わせることを報告した。

報告第7号 国際大会派遣選手選考について(International Speed Master Meishan2025およびアジアキッズ選手権2025)について

望月専務理事が資料を基に説明し、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第8号 I F S Cクライミンググラン

ドファイナルズ福岡2025派遣選手の決定についてについて

望月専務理事が、メールによる臨時常務理事会で承認された旨を説明した。

報告第9号 SC部ブロック別研修会の実施について

望月専務理事が、配布資料を基に説明した。原理事が、ガバナンス委員会から講師派遣を廣川委員長に依頼した。

報告第10号 イラン山岳スポーツクライミング連盟からの来日招待状発送依頼への対応について

望月専務理事が、資料を基に説明し、観光ビザを、渡航者が発給申請することにし、JMSCAが関わらない方向で手順を集約予定と話したが、先方からの確認項目が残っている状況を説明した。

安井理事が、今期からアジア系チャンプに参加予定であることを追加説明した。

報告第11号 今後の役員派遣ほか渉外等について(10月～11月)

望月専務理事が、資料を基に予定を説明した。

その他

1 確認願い 令和7(2025)年度上半期事業報告の各委員会による確認・記載

望月専務理事が、資料を基に説明し追加書き込みの協力を求めた。

2 確認願い 会員・役員の名簿について

望月専務理事が、資料を基に説明し、変更、追加が必要であれば、10月16日までに返信するように協力を求めた。

3 確認願い 全日大会プログラム、功労者表彰、広告原稿、岳連旗

望月専務理事が、兵庫県山岳連盟から依頼されていることの確認を行った。

4 確認願い JMSCAフレンドにおける自然保護指導員証の取り扱い

小高理事が、900数名の指導員証をどのようにするか、11月中旬の全国会議で説明する必要があるため、担当委員会等からの説明を求めた。詳細については、10月15日行われる会議で協議することになったが、更新や新規など一部の指導員について、従来どおり紙で出す選択肢もあげられた。

5 日山協の旗について

赤尾事務局長が、要望があれば配布することを伝え、別途メールで案内することを伝えた。

8. 各委員会議事録について

導入したクラウド「BOX」は秘匿性が高い一方、多数の者がファイルの出し入れをするには煩雑である。SC部は既にgoogleドライブに委員会議事録を保存済であることから、登山部を含む他の委員会の議事録も同様の取り扱いとする方向となった(DXチームで検討)。

以上

令和7年10月9日

記録 赤尾浩一

寄贈図書

(株)日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2483号、第2484号、第2485号	新 聞
大町山岳博物館	「山と博物館」2025 秋号	会 報
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊301	会 報
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」11月号 No.941	寄 贈 本
(公社)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.570	会 報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」10 2025 November	寄 贈 本
やまびこ山想会	「やまびこ」219号、220号	会 報
おいらく山岳会	「山行手帖」No. 791	会 報

(公社)日本山岳会	「山」10月号 No.965	会 報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.103 No.1148	会 報
(公社)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.308	会 報
(公社)京都府スポーツ協会	「スポーツ時報」第144号	会 報
(一社)日本防火・防災協会	「地域防災」No.64	会 報
東京白陵会	「恩田善雄の甲斐駒ヶ岳を伝える」	寄 贈 本
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2025 秋号	会 報

「かすみちゃんのハイキング日記」



表紙のこぼ



青野山 — 津和野を見守る「妹山」

島根県津和野町の東方にそびえる青野山(907m)は、お椀を伏せたような優美な姿から「妹山(いもやま)」とも呼ばれ、町のシンボルとして親しまれています。約16万年前に形成された溶岩ドームで、学術的にも貴重なアダカイト質安山岩から成ります。登山道は整備され、片道約1時間半で山頂へ。登山道の途中からは、木々の合間に津和野の城下町を望むことができます。四季折々に姿を変えるその山容は、今も多くの登山者に親しまれています。信仰と自然、文化が調和する名山として、令和元年に国の天然記念物及び名勝に指定されました。

島根県山岳・スポーツクライミング連盟
専務理事 大垣 隆

編集後記

紅葉の季節も終わりでしょうか。私は子供をベビーキャリアに乗せて登山を楽しんでいます。歩いていると「すごいですね!」や「パパ頑張って!」と声をかけていただくこともあります。実際にどのくらいの重量を背負っているのか気になる方も多いのではないのでしょうか。具体的には、娘は2歳で体重が12キロです。使用しているベビーキャリア(オスプレー製)が3.5キロ。さらに水や食料、着替えなどの荷物が約5キロ、合計するとおよそ20キロになります。これは冬のテント泊装備と同じくらいですが、子どもは日々成長するので、だんだん重くなります。

(松本光顕)

登山月報 第680号

定価 110円(送料別)
予約年間 3,000円(送料共)
(毎月1回15日発行)
発行日 令和7年11月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 905
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ『岳人』

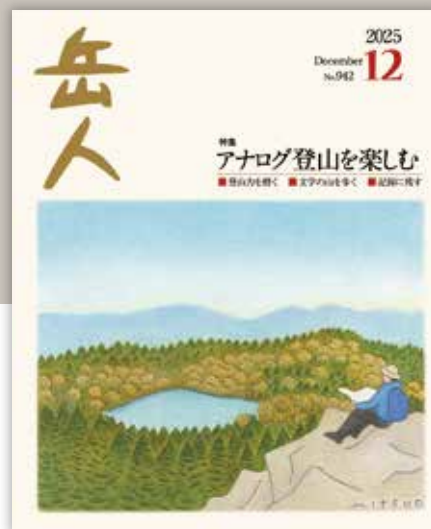
12月号
販売中

【特集】

アナログ登山を楽しむ

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて販売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読
通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに

モンベル
クラブ
会員さまには

モンベルポイント
5,000P プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,300ヵ所以上で
ご優待!

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15, 16, 17	- 再生可能エネルギーの普及支援 - 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 健康づくりの支援 - 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17	- 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） - 災害に強いまちづくりの支援

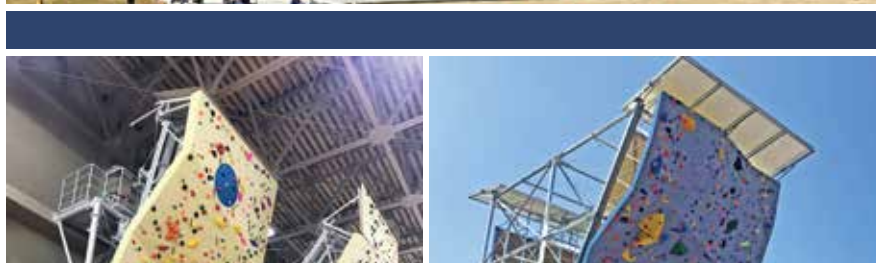
立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2024年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2025年6月19日)

発生件数	2,946 件 (前年対比 180件減)
遭難者数	3,357 人 (前年対比 221人減)
死者・行方不明者	300 人 (前年対比 35人減)



2025年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

